

Anna Bottasso, Sébastien Duchêne, Eric Guerci, Nobuyuki Hanaki, Charles N. Noussair, “Higher Order Risk Attitudes of Financial Experts,” *Journal of Behavioral and Experimental Finance*, forthcoming

日本語概要

リスク態度は、投資、貯蓄、雇用、教育、余暇、その他の選択に影響を与え、経済的意思決定の重要な決定要因である。リスク態度と経済的成果の関係を定量的に把握するためには、意思決定者のリスク態度を測定または推定する必要がある。このリスク態度の測定は、リスク態度の最も基本的な次元であるリスク回避に主に焦点が当てられてきたが、近年、慎重さ (Prudence) や節制度合い (Temperance) といった高次のリスク態度にも注目が集まっている。

Noussair et al. (2014) は大学生とオランダの代表的なサンプルを用いて高次のリスク態度を測定し、慎重さと節制度合いが、実験外の金融判断と強い相関をいくつも示すことを明らかにした。本研究はNoussair et al. (2014) に則り、金融専門家の高次のリスク態度を測定した。

本研究のデータでは、金融専門家はNoussair et al. (2014) のオランダの代表的なサンプルよりもリスク愛好的であり、より非節制的であることが観察された一方、慎重さに関して差はなかった。市場参加者がどの程度リスクを回避し、どの程度節制的であるかは、市場行動に影響を与える。市場参加者のリスク回避度が低ければ、リスク回避度と市場参加に関係がない場合と比較して、投資家のポートフォリオにおける分散投資の量も減少すると予想される。また、市場参加者がより非節制的であることは、避けることのできないリスクが上昇した場合、安全資産への逃避が、節制度合いと市場参加への関係がない場合に比べて、より弱くなることが予想される。これらを検証することは、今後の重要な研究課題であると考えられる。

引用文献

Noussair, C., Trautmann, S.T., and Van de Kuilen, G. (2014). Higher order risk attitudes, demographics, and financial decisions, *Review of Economic Studies*, 81(1), 325-355.

(作成) 酒井良祐 花木伸行